再評価結果（令和６年度事業継続箇所）

担　当　課：道路局　国道・技術課
担当課長名：髙松　諭

事業名	高規格ＩＣアクセス道路 一般国道256号　高富（たかとみ）バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	岐阜県
起終点	自：岐阜県（ぎふ）山県市佐賀（やまがたしさが）　至：岐阜県（ぎふ）山県市伊佐美（やまがたしいさみ）			延長	3.8ｋｍ

事業概要

一般国道256号は、岐阜県岐阜市を起点とし、山県市、中濃及び東濃地域を経由して、長野県飯田市に至る延長約247ｋｍの路線で、第二次緊急輸送道路に指定される重要な路線である。当該事業は、このうち岐阜市・山県市境から山県市内の約3.8ｋｍのバイパスを整備するものであり、東海環状自動車道「山県IC」へのアクセス向上、渋滞緩和による円滑な交通の確保及び災害時に有効に機能するネットワークの確保を目的としている。

H8年度事業化	S58年度都市計画決定	H8年度用地着手	H9年度工事着手

全体事業費	約155億円	事業進捗率	約83%	供用済延長	2.7　km
計画交通量	11,500　台／日				

費用対効果分析結果	B／C	総費用（残事業/事業全体）	総便益（残事業/事業全体）	基準年
	（事業全体）1.3 （残事業）18.2	19/253　億円 事業費：17/252　億円 維持管理費：1.4/1.4　億円 更新費：0/0　億円	339/340　億円 走行時間短縮便益：308/308　億円 走行経費減少便益：28.0/28.2億円 交通事故減少便益：3.3/3.3　億円	令和5年

感度分析の結果

（全体事業）交通量：B/C=1.2～1.5（交通量　±10%）
事業費：B/C=1.2～1.5（事業費　±10%）
事業期間：B/C=1.2～1.5（事業期間±2年）

（残事業）交通量：B/C=16.4～20.0（交通量　±10%）
事業費：B/C=16.4～20.3（事業費　±10%）
事業期間：B/C=17.1～19.0（事業期間±2年）

事業の効果等

① 東海環状自動車道へのアクセス向上と地域振興
・一般国道256号高富バイパスの整備により、東海環状自動車道「山県IC」へのアクセスが向上するとともに、山県市都市計画マスタープラン（H29改訂）に位置づけられる「IC周辺整備構想」による新たな市街地やIC周辺の工場用地、山県バスロータリーへのアクセスも向上し、地域の活性化や産業振興が期待される。

② 渋滞緩和による円滑な交通の確保
・現道の一般国道256号は通過交通と地域交通が混在し慢性的な渋滞が発生しているが、一般国道256号高富バイパスを整備することで、渋滞の回避や交通の分散などにより円滑な交通の確保が期待される。

③ 災害時に有効に機能するネットワークの確保
・緊急輸送道路を整備することで、山県市北部から第3次緊急医療拠点である岐阜大学附属病院や県内唯一の「防災道の駅　道の駅パレットピアおおの」といった広域防災拠点へのアクセス時間短縮に寄与でき、災害時のネットワーク強化が期待される。

関係する地方公共団体等の意見

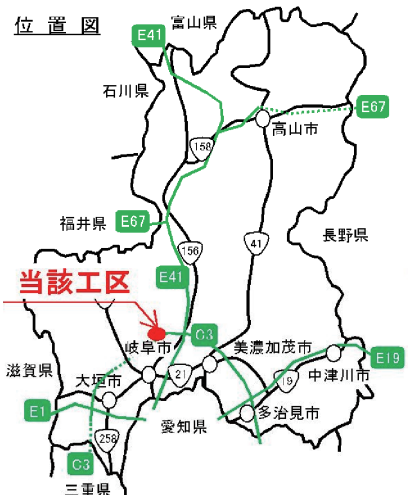
山県市から、東海環状自動車道「山県IC」と連携し、広域的な地域間の物流や交流を促進、沿線地域の安全・安心暮らしを支え、地域発展に資する極めて重要な道路であるとともに、市の幹線道路として、沿線住民の生活を根底から支える重要な道路であることから、早期の整備促進による経済の活性化と安全の確保を要望されている。

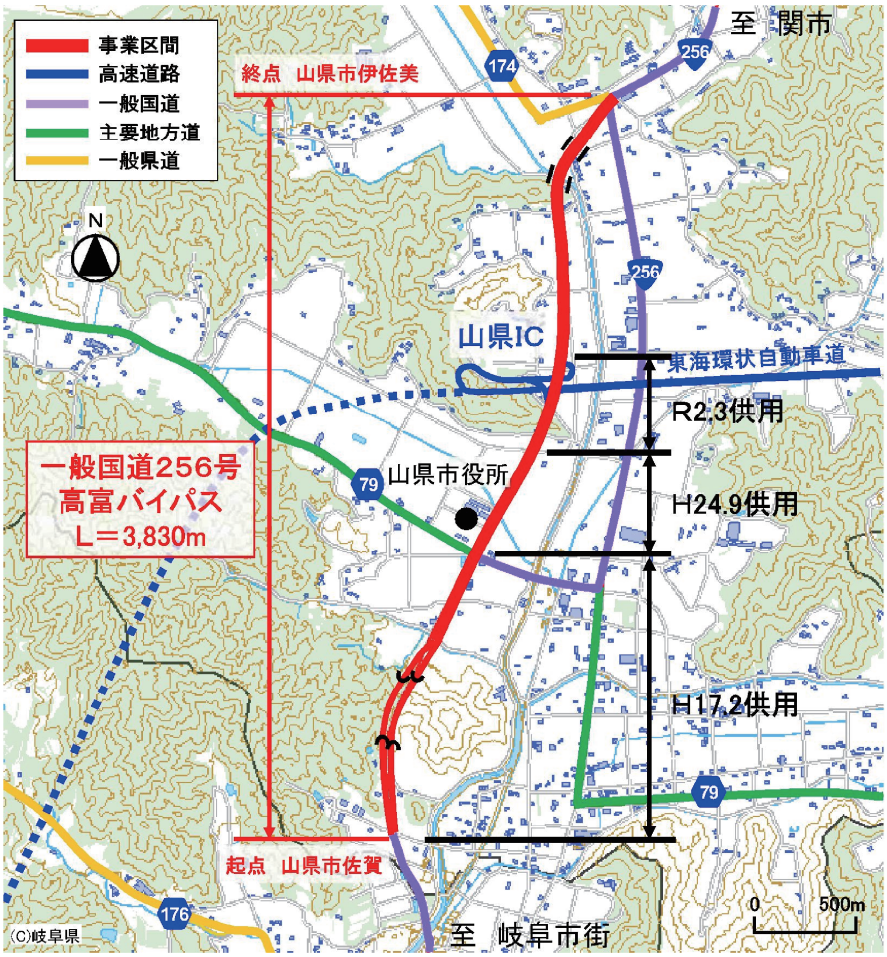
事業評価監視委員会の意見

・事業主体の対応方針（案）「継続」を了承する。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	
・本事業箇所と直結する東海環状自動車道において、関広見ICから山県ICが令和2年3月に開通した。また、山県ICから大野神戸IC間は令和6年度に開通する見通し。 ・山県IC周辺では、令和3年6月にバスターミナルが完成し、バスターミナルと連携した高速バスの運行、無料パークアンドライド用駐車場整備により、山県市と名古屋市間や山県市と岐阜市間の移動の利便性が向上している。	
事業の進捗状況、残事業の内容等	
・用地取得率76%、事業進捗率83%	
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	
・引き続き、早期開通に向けて事業を進める。	
施設の構造や工法の変更等	
・当初計画の橋梁形式をより経済的な形式に見直しを行い、コスト縮減を実施した。今後も技術革新による新工法、新材料等の情報を積極的に収集し、コスト縮減にむけ継続的に検討していく。	
対応方針	事業継続
対応方針決定の理由	
・事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。	

事業概要図





※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。